

社会基盤情報の利活用のために

— 「長く・広く・深く」社会基盤情報の価値を活かすための11の提案 —

意味を深く理解した高度な処理の実現

- ③ 利用者に対してデータ仕様・所在・利用条件を見える化する
- ④ データの意味の理解をコンピュータに支援させ、品質・生産性が向上される

- ⑤ 国などの様々な主体が保有する社会基盤情報が広く公開・流通される
- ⑥ 共通的に利用できる基盤地図の網羅性が向上される
- ⑦ 分散管理された情報が施設単位に紐づけられ、ネットワーク上で一元的に入手・利用される
- ⑩ 基盤データを保有する個別のデータベースが連係して更新・相互利用される

- ① 情報の利用のされ方(目的・期間)に適した柔軟な標準仕様を整備する
- ② 情報が作成された初期の段階で不具合をチェックし流通の過程で精度が向上される
- ⑧ プロダクトモデルを用いて生産性向上や維持管理が高度化される
- ⑨ ライフサイクルにおいて利用されるシステムが保有する社会基盤情報が効率的に蓄積・再利用される
- ⑪ 相互運用性を確保し将来も必要な社会基盤情報が確認・利活用される

分野や組織を超えて**広く**活用させる仕組み

ライフサイクルにわたる長く無駄の無いデータの流通

第三次建設情報標準化推進三箇年計画に対する「長く・広く・深く」社会基盤情報の価値を活かすための11の提案の位置づけ

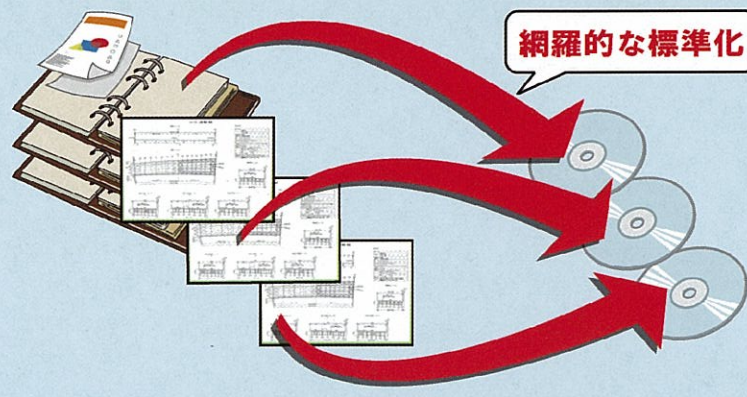
CALS/ECの取り組みが始まってから10年以上が経過し、紙から電子データへの移行は着実に進展しました。また、電子納品については、要領・基準類が策定され、2004年度からは国土交通省の直轄事業において全面的に実施されており、大量の社会基盤情報が蓄積されつつあります。

今後、これら蓄積された社会基盤情報の利活用を一層促進するために、「建設情報利活用グランドデザイン検討タスクフォース」では、現在私たちが抱えている問題や情報技術の最新動向を整理し、今後目指すべき方向性として、「社会基盤情報の価値を活かすための11の提案」を策定しました。

社会基盤情報の価値を活かすための課題

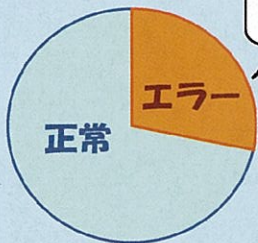
社会基盤情報の整備時

高度な標準化レベルに対応するための負担



データ作成時のエラー修正に大きな負担を要する

解消されないエラー

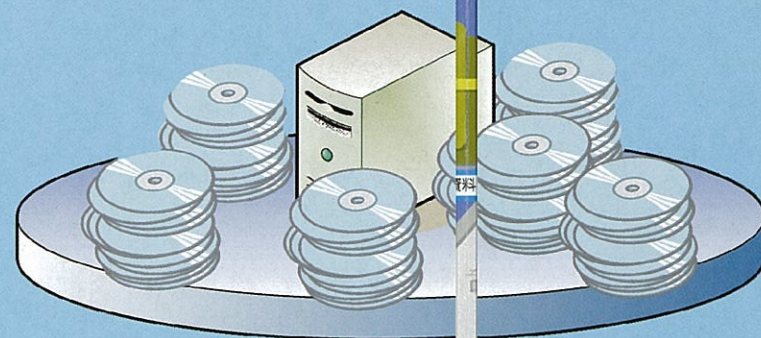
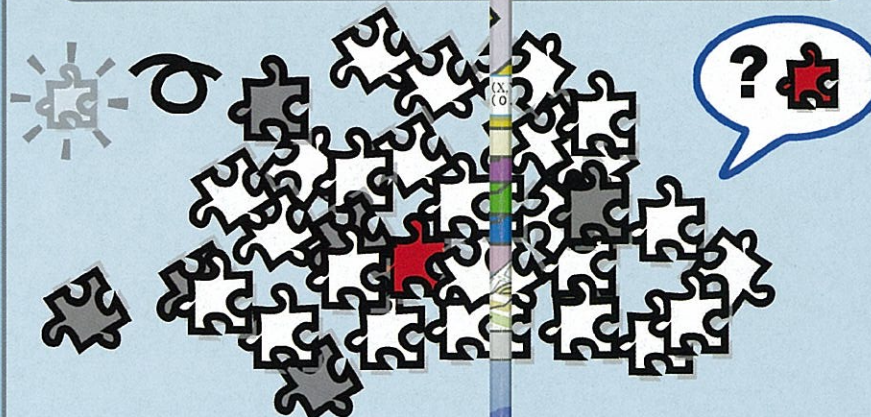


課題

- 様々な仕様のデータを負担なく登録・活用できる仕組みの構築
- 利活用効果に応じた標準化レベルの設定

社会基盤情報のメンテナンス時

データの維持・管理の負担



用途によらず統一された保存形式

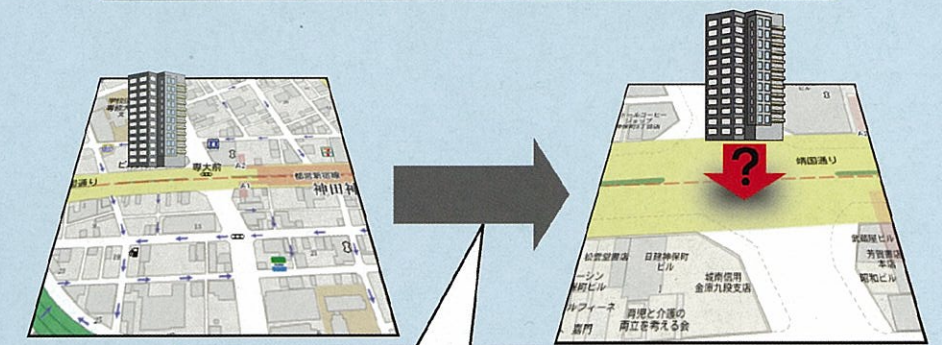


課題

- 関係者の負担を軽減し、利活用を支援する仕組みの構築
- 利用場面を考慮した保存形式の設定

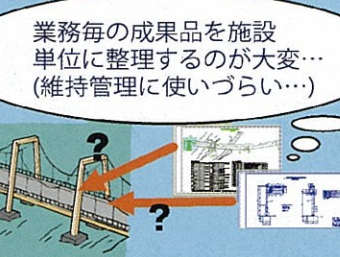
社会基盤情報の利活用時

分散して整備された基盤データの非互換性



別の大縮尺の地図に重ね合わせをすると位置がずれる場合がある

被災した建造物の設計図がCDの劣化で読み込みできない… (結局作り直さないといけない)

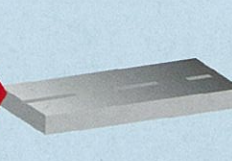
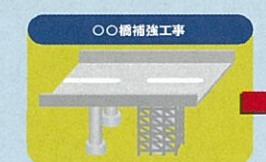
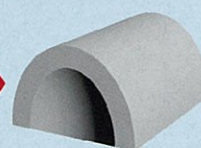


提供された図面が最新ではないので監督検査用の資料作成が大変…



業務毎の成果物を施設単位の整理するのが大変… (維持管理に使いづらい…)

個別業務単位に管理されている情報

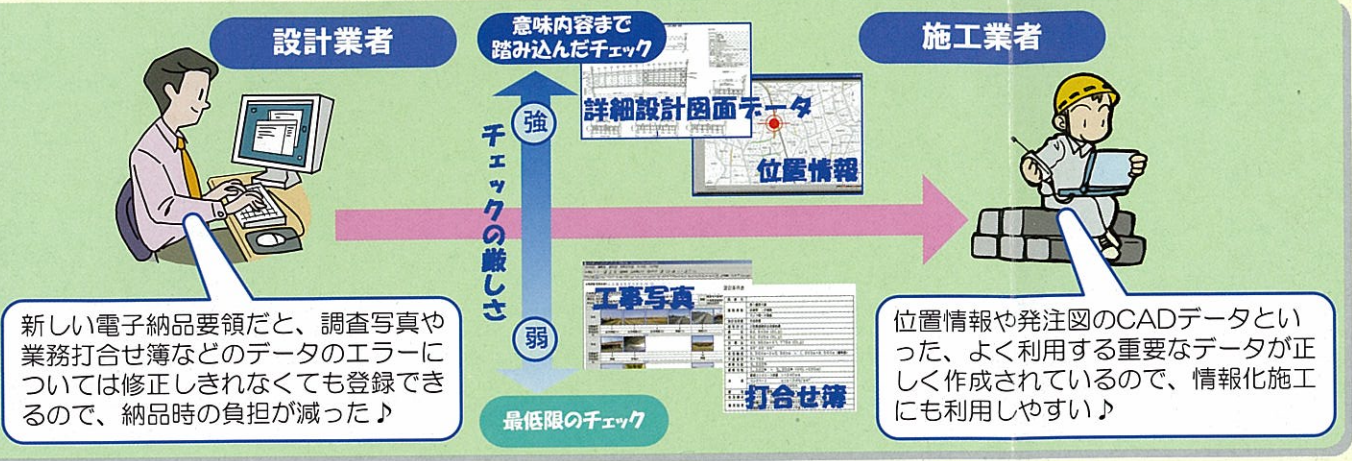


課題

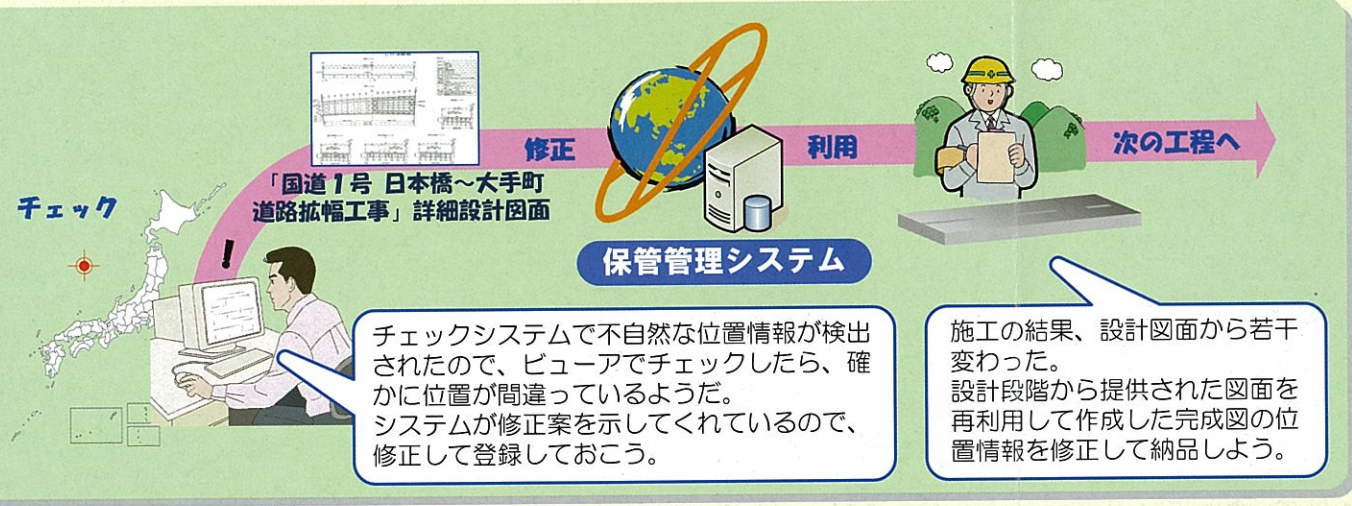
- 位置情報や建設物単位で管理できる仕組みの構築
- 基盤データの網羅的な整備による一元化

「長く・広く・深く」社会基盤情報

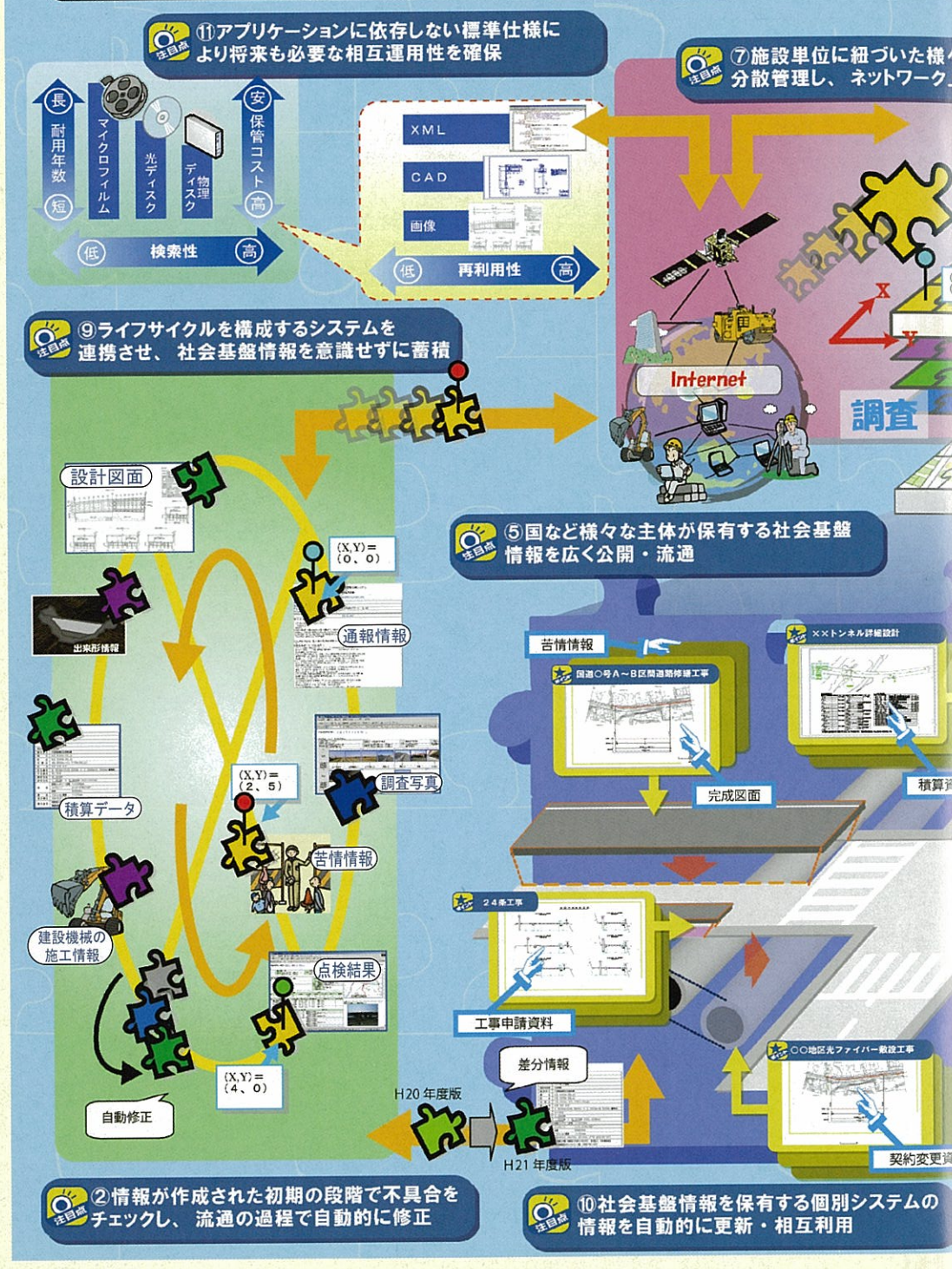
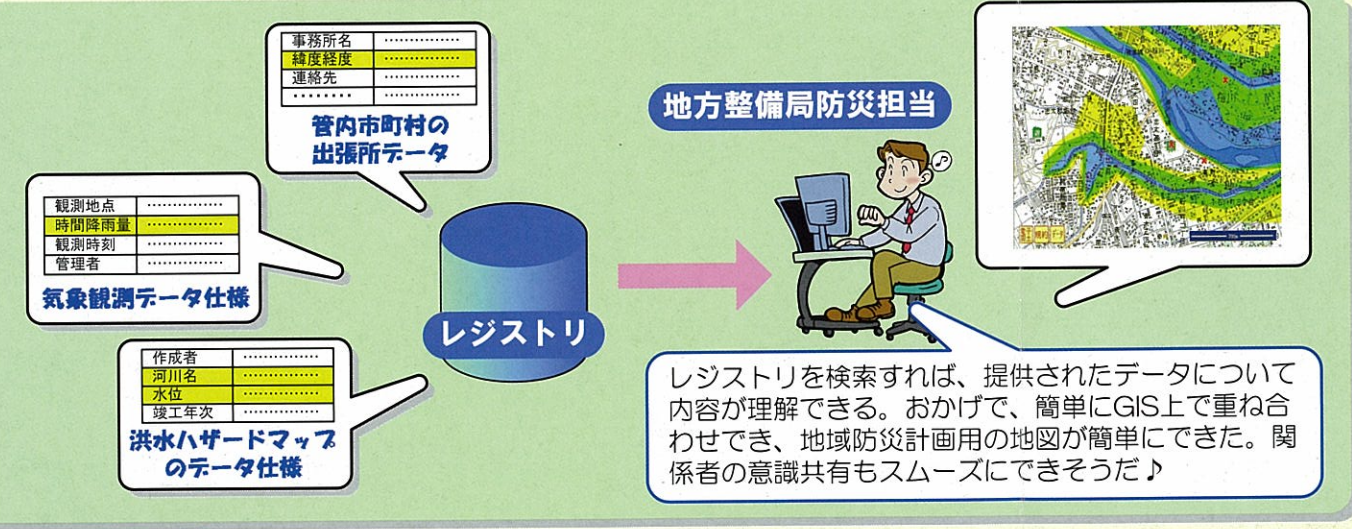
① 情報の利用のされ方（目的・期間）に適した柔軟な標準仕様を整備する



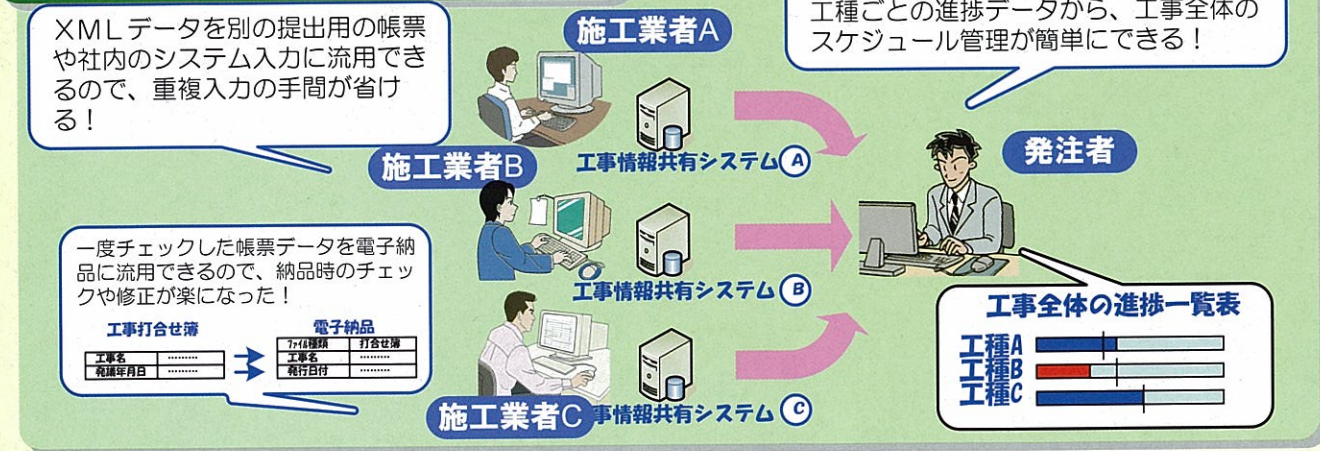
② 情報が作成された初期の段階で不具合をチェックし、流通の過程で精度が向上される



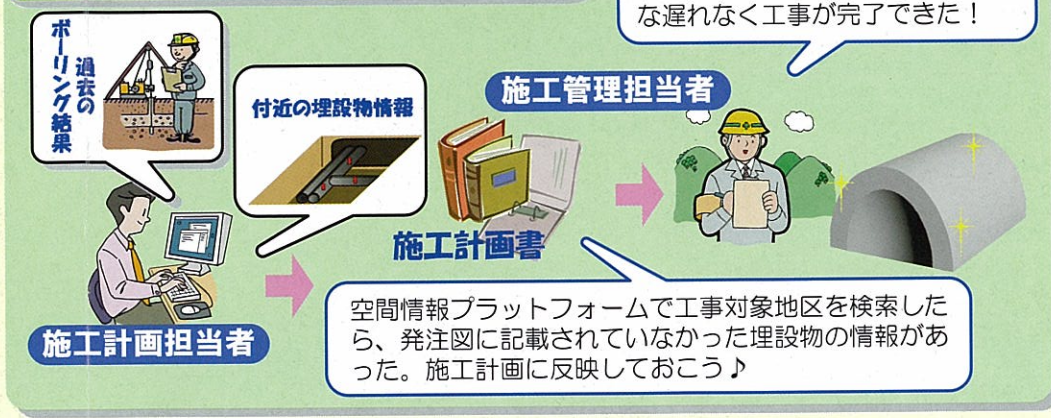
③ 利用者に対してデータ仕様・所在・利用条件を見える化する



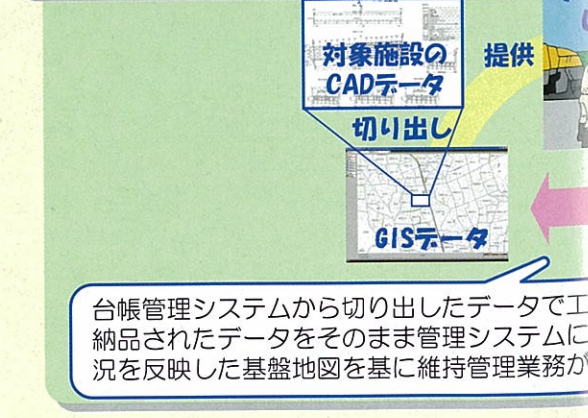
④ データの意味の理解をコンピュータに支援させ、品質・生産性が向上される



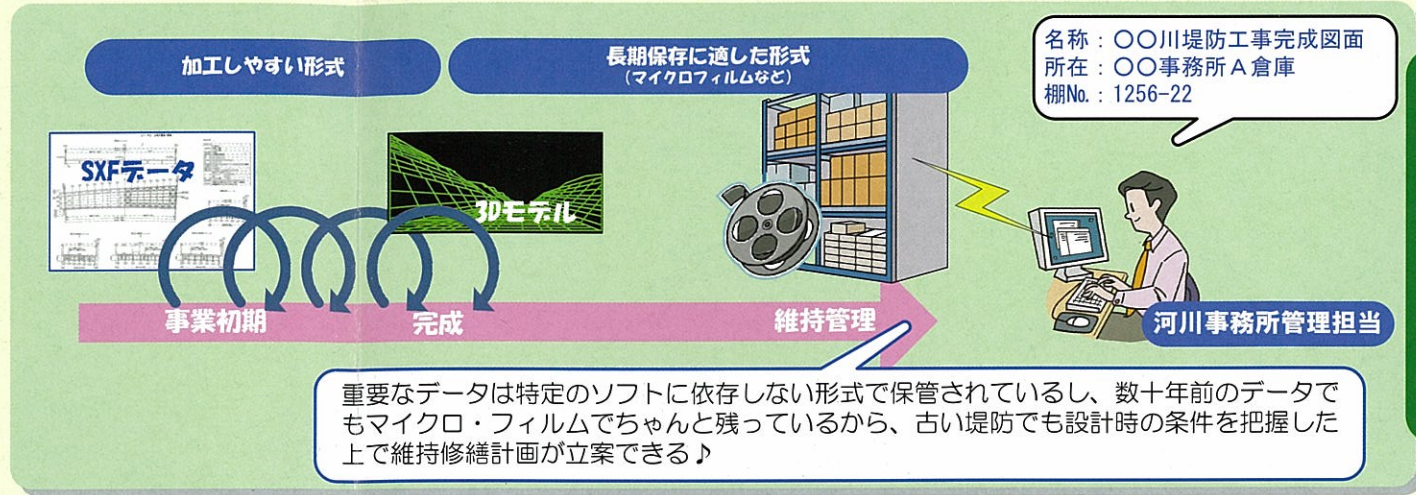
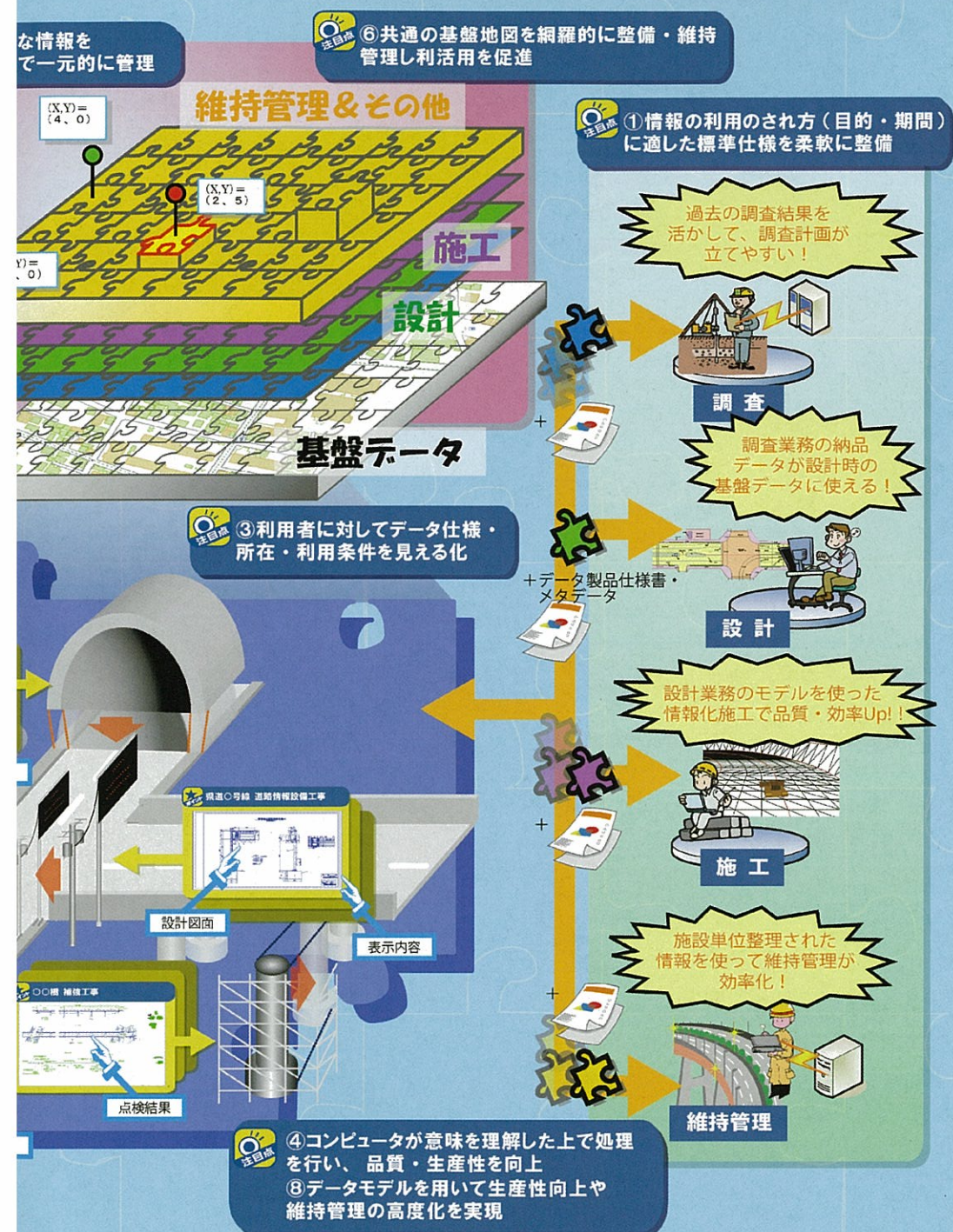
⑤ 国などの様々な主体が保有する社会基盤情報が広く公開・流通する



⑥ 共通的に利用できる基盤地図の網羅性が向上される

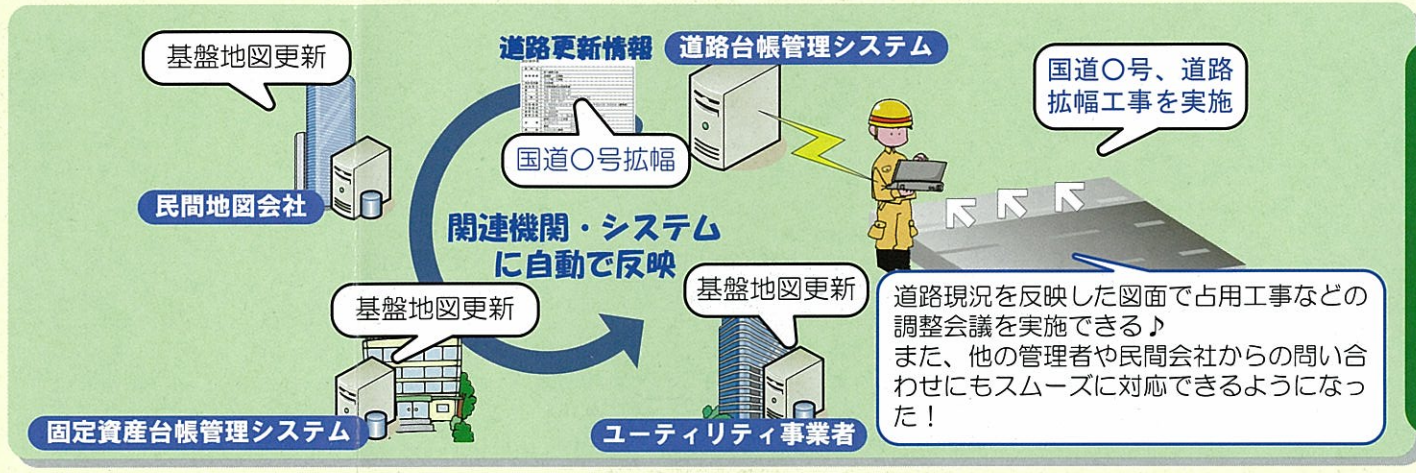


情報の価値を活かすための11の提案



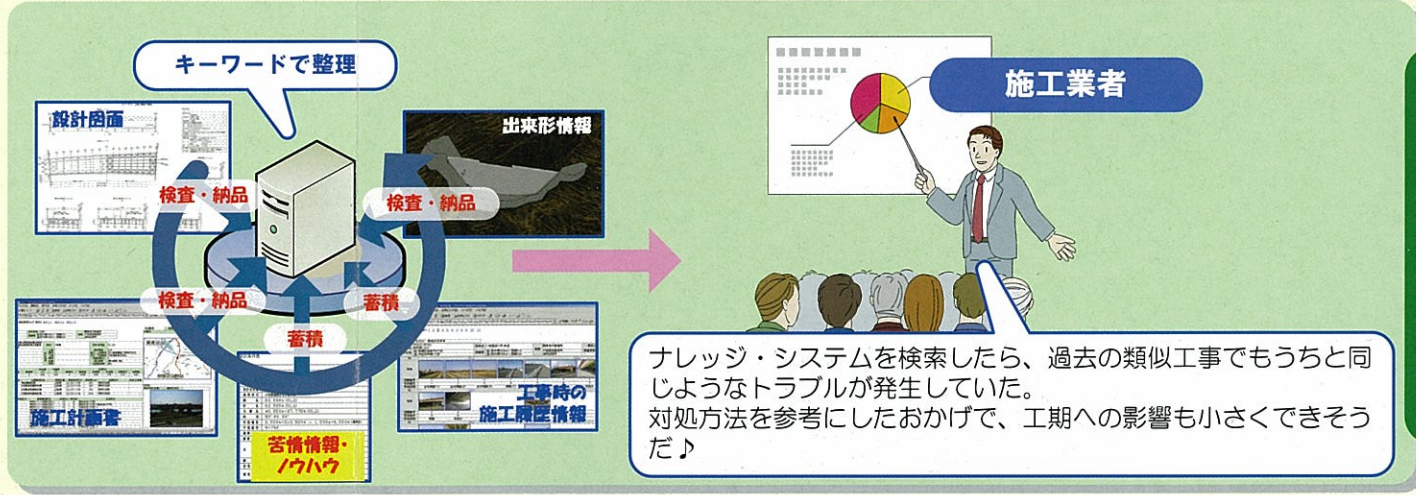
11

相互運用性を確保し将来も必要な社会基盤情報が確認・利活用される



10

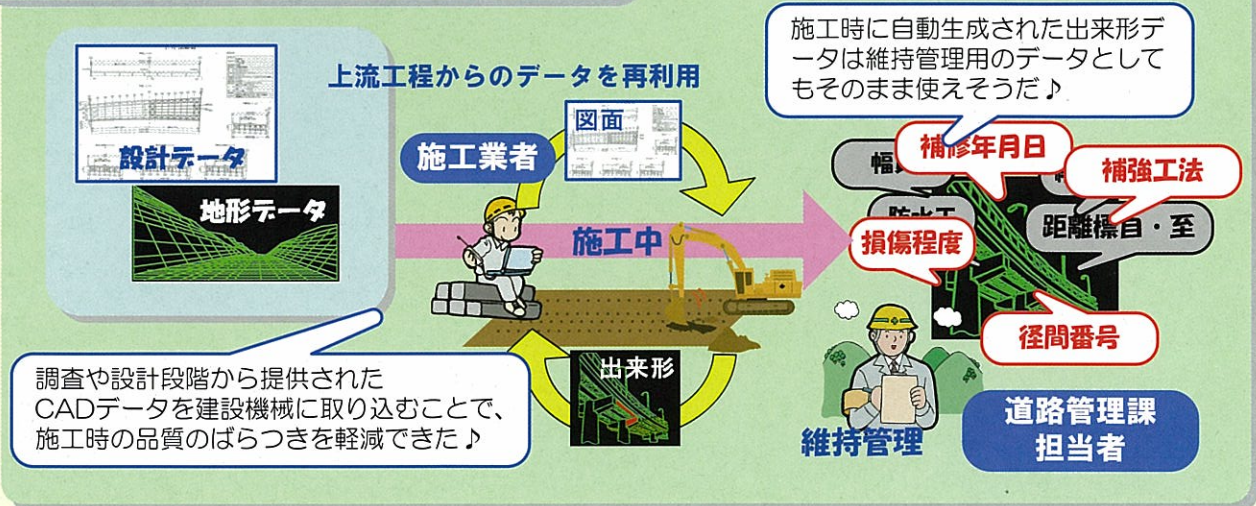
基盤データを保有する個別のデータベースが関係して更新・相互利用される



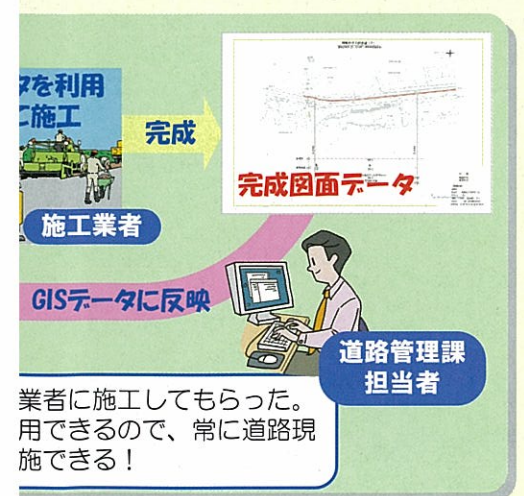
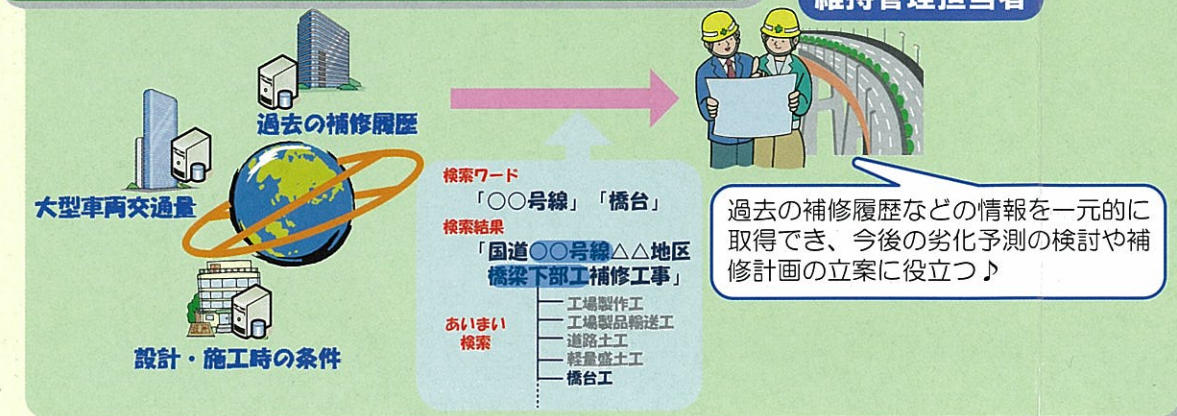
9

ライフサイクルにおいて利用されるシステムが保有する社会基盤情報が効率的に蓄積・再利用される

8 プロダクトモデルを用いて生産性向上や維持管理が高度化される



7 分散管理された情報が施設単位に紐づけられ、ネットワーク上で一元的に入手・利用される



社会基盤情報標準化委員会とは

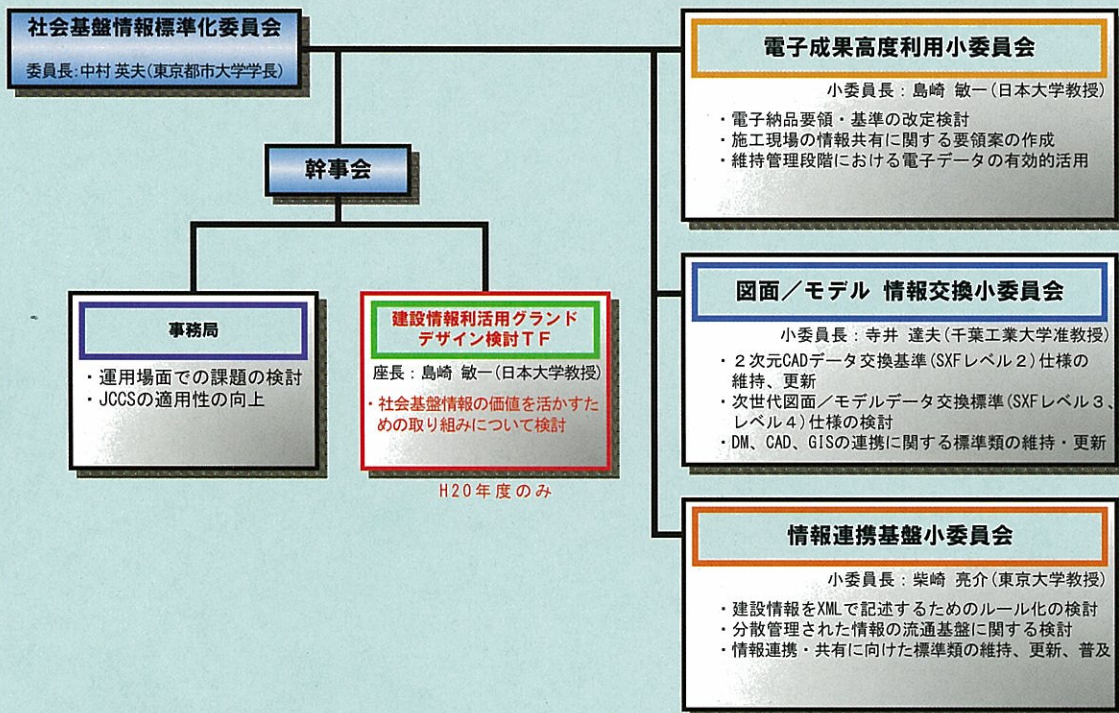
社会基盤情報標準化委員会は、建設分野全体という大きな視点から標準化作業をとらえ、既存の標準を尊重しつつ、標準間の調整を行うことや、必要な場合には新たな標準の開発を行う場です。

経緯

平成12年5月に「建設情報に係る標準化ビジョン策定懇談会」において策定、公表した「建設情報に係る標準化ビジョン」の趣旨に則り、(財)日本建設情報総合センターが、平成12年10月4日に産学官共同の「建設情報標準化委員会」を設置しました。その後、平成20年6月の第17回委員会で名称を「社会基盤情報標準化委員会」と変更しております。

- H12.2 建設情報に係る標準化ビジョン策定懇談会設立
- H12.5 建設情報に係る標準化ビジョン策定・公表
- H12.10 建設情報標準化委員会設立
- H13.6 第一次建設情報標準化推進計画策定・公表
- H16.7 第二次建設情報標準化推進計画策定・公表
- H19.7 第三次建設情報標準化推進計画策定・公表
- H20.6 委員会名称を社会基盤情報標準化委員会に変更

社会基盤情報標準化委員会における 建設情報利活用グランドデザイン検討タスクフォースの位置づけ



平成21年6月現在

標準化委員会ホームページURL : <http://www.jacic.or.jp/hyojun/>
 問合せ先: (財)日本建設情報総合センター(JACIC) 標準部
 TEL (03)3505-0419
 FAX (03)3505-2967
 E-Mail: hyojun@jacic.or.jp